

あきたからの米レター

莖数不足解消も、生育は平年より早い
目標莖数を確保した圃場は、ただちに中干しを！
地域・圃場間差が大きいいため、圃場ごとに最適な管理を

1. 県内の生育状況

6/25 時点の生育は、全県で草丈は **39.8cm (平年比 108%)**、莖数は **443 本/m² (同 109%)**、葉数は **9.4 葉 (平年差 +0.7 葉)**、葉緑素計値 44.0 (平年比 100%) と、なっており、6/10 調査で平年より少なかった莖数は平年より多くなりました (表1)。

表 1 県内の生育状況 (6/25、各地域振興局調査)

品種	地区	草丈			莖数			葉数			葉緑素計値		
		2024 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	2024 本/m ²	前年比 (%)	平年比 (%)	2024 (葉)	前年差	平年差	2024 (%)	前年比 (%)	平年比 (%)
あきたこまち	県北	39.7	94	105	458	106	101	9.5	0.3	0.6	43.3	99	98
	中央	42.1	96	110	498	113	125	9.6	0.4	0.7	43.5	100	99
	県南	38.9	101	110	408	118	110	9.2	0.5	0.7	44.7	101	102
	全県	39.8	97	108	443	112	109	9.4	0.4	0.7	44.0	100	100
6月25日の理想生育量	目標	34	33	36	428	394	462	8.5	8.3	8.7	42	41	43
	県北	34	33	36	428	394	462	8.5	8.3	8.7	42	41	43
	中央	36	34	38	431	388	475	8.6	8.3	8.8	45	44	46
(参考)ひとめぼれ	中央	43.2	95.4	111	545	101	106	9.4	0.1	0.4	39.6	99	96

※平年値：H26～R5年までの過去10年平均

6月2半旬以降が**高温多照**で経過したことや (図1)、**適切な水管理 (浅水管理) の徹底**により、目標莖数を確保できたと考えられます。しかし、県北や県南の一部圃場では、6/25 時点での目標莖数が確保できていない圃場もあり、**地域間差・圃場間差が大きい**状況となっています (表2、図2)。

前述したとおり、高温多照で経過したことから、生育は順調な圃場が多いものの、全県的に葉齢が進んでおり、稲の生育ステージは早まっています。

莖数が確保できた = 収量確保ではなく、**いかに穂数を確保できる**かが重要です。

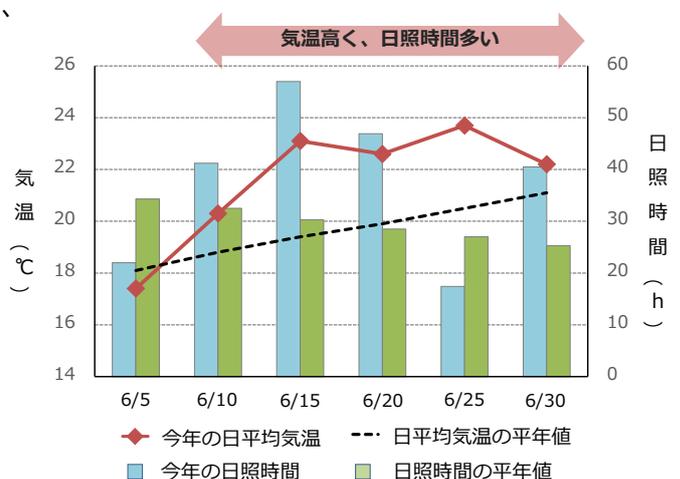
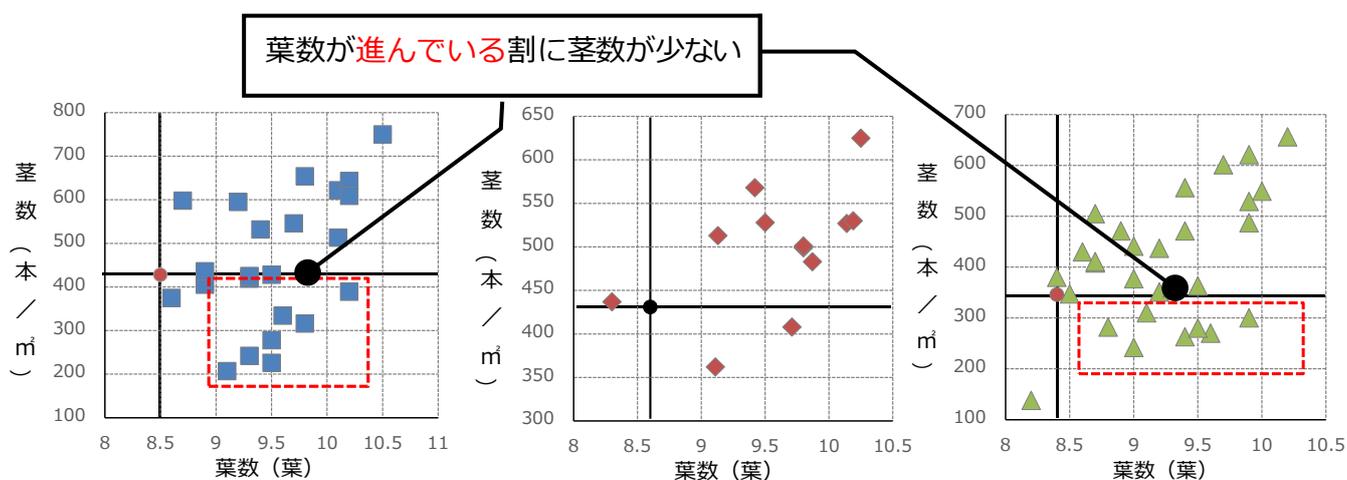


図 1 秋田市の日平均気温の推移と日照時間

表 2 6/25 現在の地域別生育状況（各地域振興局調査）

地域	草丈			㎡当たり茎数			葉数			葉緑素計値		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (葉)	平年差	本年	前年比 (%)	平年比 (%)
鹿角	38.9	102	107	491	116	98	9.7	0.6	0.8	45.2	104	100
北秋田	40.7	93	103	508	116	107	9.6	0.3	0.6	44.2	103	101
山本	39.3	92	106	390	89	96	9.4	0.2	0.5	41.4	92	94
秋田	42.7	93	108	502	109	123	9.7	0.3	0.7	43.5	100	98
由利	38.9	114	119	483	137	139	8.9	0.7	0.7	43.8	103	104
仙北	38.7	100	109	441	115	107	9.4	0.5	0.9	46.0	103	105
平鹿	37.7	100	109	373	122	113	8.9	0.4	0.5	43.3	100	100
雄勝	40.8	102	113	416	118	112	9.5	0.8	0.8	45.1	100	100



※図中の●印は、6/25における理想生育量を表す

図 2 6/25 現在の葉数と茎数の関係（左から県北、中央、県南地区）

今年**2次分げつ（孫分げつ）の発生が多くなっています**（表3）。5/15 植え、5/25 植えともに3号・4号の**2次分げつが平年より多く**発生しており、さらに5/15 植えでは**7号一次分げつ**も多く発生しています。秋田米産地情報第1号でもお伝えしましたが、**弱勢茎（7号以降の1次分げつ）と2次分げつは、強勢茎（3～6号分げつ）よりも有効茎歩合が低く、整粒歩合も低い**ため、高品質・良食味米には**強勢茎を確保**することが重要になります。しかし、今年**6/25 現在での葉齢が、平年よりも+0.7 葉も進んでいる**ため、“いつも通り”の水管理を行っている**と、無効茎になりやすい分げつが増えてしまう**可能性があります。

6/25 時点で目標茎数を確保できている場合は、**速やかに中干しを開始し、弱勢茎を抑制し、今発生している分げつに栄養を集中させ、「太い茎作り（=有効茎歩合が高く、収量にも貢献できる）」**を行いましょう！

表 3 次位節位別分げつ発生状況（6/26、作況ニュース第4号より）

（本/10個体）

試験区	1次分げつ								2次分げつ					
	1号	2号	3号	4号	5号	6号	7号	8号	1号	2号	3号	4号	5号	6号
5/15植え	0	2	6	10	10	10	10	1	0	1	10	17	5	
平年	-	2	6	10	10	10	6	1	0	1	7	13	6	1
5/25植え	0	2	9	10	10	8	2		0	3	9	16	1	
平年	-	2	6	10	10	10	3	0	0	4	7	1	0	

2. 幼穂形成期予測

7/4 現在の中苗あきたこまちの幼穂形成期予測（<https://rice-forecast.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/index.html>にて予測）は表4のとおりとなっており、どの田植え時期においても平年より早くなる見込みです。

中干し終了の目安は3 - (1) に示していますが、幼穂形成期に水が不足すると、**一穂粒数の低下**を招くため、**圃場ごとに幼穂形成期（幼穂が2 mm に達した時、図3参照）を確認し、入水時期に注意**しましょう。

表 4 あきたこまちの幼穂形成期予測（秋田市）

田植え日	7月4日以降の想定気温経過 (平年の日平均気温に対する差)			平年差※ (日)		
	+2℃	±0℃	-2℃	+2℃	±0℃	-2℃
5/10	7/3	7/3	7/3	-12	-12	-11
5/15	7/7	7/7	7/7	-8	-8	-8
5/20	7/10	7/10	7/11	-5	-5	-4
5/25	7/12	7/13	7/14	-3	-2	-1

※平年値を7/15とした場合の差

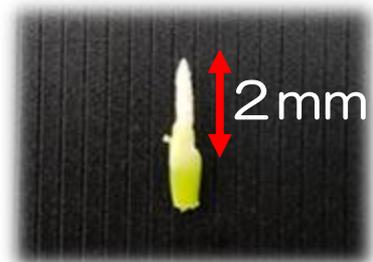


図 3 幼穂形成期の幼穂

3. 今後の圃場管理

(1) 水管理

ア. 6月下旬～7月上旬 ⇒十分な茎数が確保できている圃場では、**中干し**を開始する。

中干しの期間は**7～10日**程度とし、強い中干しは行わない。

目安は**田面に亀裂が1～2cm**程度入り、足跡が付く程度。

イ. 7月中旬（幼穂形成期）⇒水が必要な重要な時期！しかし、急な湛水は稲体の活力が低下する可能性があるため、**間断かん水**により土壤に水分と酸素を交互に供給。

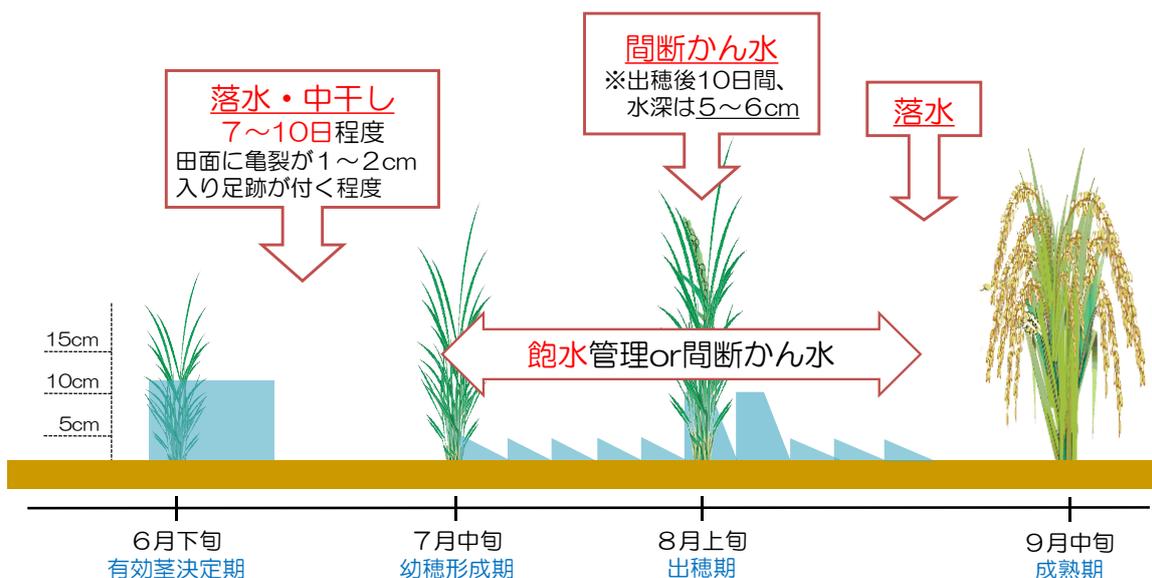


図 4 6月下旬以降の水管理

中干しの効果と溝切

- 無効分げつの発生を抑える
- 根の活力を高め、**一穂粒数**と**千粒重**を増加させる
- 節間伸長**が抑制され、**倒伏**が軽減される

排水不良田や、有機物が多く異常還元が発生しやすい圃場では、中干しと合わせて“**溝切り**”を行うと、中干し以降の水管理も効果的に行うことができます。



(2) 病害虫防除

ア. いもち病

6/24 までに全県的な全般発生（病気の発生量に関わらず、地域のほとんどの圃場でいもち病が発生している状態）をもたらす感染好適な条件は確認されていませんが、6月2半旬以降、高温で経過していることから、全般発生開始期が早まる可能性があります（平年7/6）。全般発生開始期が早まると、葉いもち病や穂いもち病の発生が多くなる傾向があるため、圃場を確認し、発生が認められた場合は**追加防除***を行いましょう。

※ブラシン剤またはノンブラス剤を茎葉散布。その後、必要に応じてビーム剤



イ. 斑点米カメムシ類対策

今年は春先の好天で斑点米カメムシ類の発生が早かったことに加え、高温で経過したこともあり、6月3半旬までの総誘殺数はアカスジカスミカメが **300 頭（平年 28.7 頭）**、アカヒゲホソミドリカスミカメが **52 頭（同 37.8 頭）** と平年よりも**かなり多く**なっています。（6/25 発表、農作物病害虫発生予察情報第3号より）。

水田内にヒ工等のイネ科雑草またはホタルイ類等のカヤツリグサ科が残草している場合は、中後期剤等で防除を徹底しましょう。

※中後期除草剤は使用方法や時期が剤によって異なるため、ラベルをよく見て使用しましょう。



米穀部実証圃では、今年も6月中旬頃から**飽水管理**を実施しています。

6月上旬の調査時には、足を踏み入ると少し気泡が出て、ワキ始めたかな？という感じでしたが、その後は全くワイていないと感じています。

これから幼穂形成期を迎え、ますます水が重要になってきますが、用水不足の時や、異常還元がきそうな時は、ぜひ、**飽水管理**をおすすめします！



6/23に平年より8日、昨年より14日遅い梅雨入りが発表されました。もはや昨年と同時期の記憶も薄れていますが、今年は湿度が異常に高い気がします。外もですが、事務所や自宅など、屋内の方がジメジメしているように感じます。エアコンで除湿してるのに、このまとわりつくような空気…

6/10時点の生育は、昨年の悪夢を思い返すような茎数の少なさで、「今年もなのか…」と不安を抱いたものの、現在は順調に生育しています！

“茎数がとれたから、今年は安泰だぁ！！”…とはいかないのが稲づくりの難しさ。これからは、茎をいかに太らせ、実を付けさせるかです。

今年も猛暑が予想されており、場所によっては用水不足が心配です。先日の6/30～7/1にかけての大雨で、少し、ため池の貯水量は回復したようですが、それでも平年より少ないのは変わりません。水管理に難儀することが想定されますが、本会が勧めている「飽水管理」などを取り入れ、天気と上手に付き合っていくしかないのかなと思います。

今年も暑い夏となりそうです。水分・塩分しっかり摂り、こまめな休憩で熱中症対策もしっかりと行いましょう！

なべ

全国農業協同組合連合会 秋田県本部
〒010-8558 秋田市八橋南 2-10-16
URL : <https://www.zennoh.or.jp/ak/>

★次回の発行は7/16頃
資料の使用にあたっては、
米穀部の許可を得てください



J A全農あきた 米穀部
〒011-0901
秋田市寺内字神屋敷 295-53
TEL : 018-845-8500
FAX : 018-880-1572